



TITLE:

<VII>コミュニティ・ネットワーク 形成支援

AUTHOR(S):

溝上, 慎一

CITATION:

溝上, 慎一. <VII>コミュニティ・ネットワーク形成支援. CPEHE Annual Report 2016, 2015: 30-34

ISSUE DATE:

2016-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/210181>

RIGHT:



VII. コミュニティ・ネットワーク形成支援

大学教育に関する改革や改善の取り組みは情報戦とも言われるほど、国内外の新しい施策や学術的な動向、それに伴う他の大学や学部の実践的な取り組みについての情報収集は不可欠な作業です。その上で、必要な事項を、京都大学全体や部局の教育改革・改善の取り組みに反映させなければなりません。

本センターでは、このような情報収集の機会、そこからコミュニティ、ネットワーク形成をはかるべく、「あさがおメールリングリスト」「大学教育研究フォーラム」「大学生研究フォーラム」の3つのシステムを構築しています。

1. あさがおメールリングリスト <http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>

本センターが、2003年より10年以上にわたって提供しているサービスです。

- メールリングリストアーカイブ(検索機能付き)
- メール投稿フォーム
- ユーザー登録・登録解除フォーム
- メールアドレス変更フォーム

上記の4つの機能からなり、本センターや京都大学からの高等教育に関する案内が全国の関係者に配信されます。登録ユーザーからも、高等教育に関する各種イベント等の案内が配信されるので、全国の主だったイベントや今どのような施策や取り組みに全国の関心が向けられているかを、このメールリングリストを通して把握することができます。

年間約500-600件の案内が配信されており(2014年490件、2015年621件)、2015年12月末日で、ユーザー登録数は3,429名です。全国の高等教育改革や改善に関わる多くの関係者が、あさがおメールリングリストに登録しています。

(溝上 慎一)

ASAGAO kyoto-u メールリングリスト

「あさがおML」は、京都大学高等教育研究開発推進センターに関する最新の情報をお知らせするためのメールリングリストです。参加(あるいは退会)をご希望の方は、「ユーザー登録・登録解除フォーム」で登録(解除)をお願いします。高等教育に関する各種イベントの案内を自由に投稿することもできますので、どうぞご活用ください。

く以下お断りです。あらかじめご了承ください。>

- *高等教育に関連しない、商業性が高いと判断される案内は、投稿されても、配信されないことがあります。
- *短い期間での同一案内の繰り返し投稿(再案内)は、管理者側で配信しないことがあります。
- *アドレスの入力ミス、メールアドレスが使用されなくなった等の理由で一定期間エラーメールがくる場合には、管理者側で登録を削除することがあります。
- *システム管理のため、金曜日の朝～月曜日の朝は配信されません。その間投稿された内容は、月曜日の朝以降配信されます。

問い合わせ: asagao@highedu.kyoto-u.ac.jp

- [メールリングリストアーカイブ](#)
- [メール投稿フォーム](#)
- [ユーザー登録・登録解除フォーム](#)
- [メールアドレス変更フォーム](#)

●ASAGAOメールリングリスト投稿一覧●

(1~10件/全2679件) [→次のページ](#)

投稿日	お名前	内容
2016/01/18 18:57:39	学校法人敬心学園	●【2/8(月)開催】平成27年度文部科学省委託事業合同成果報告会のご案内(学校法人敬心学園) 学校法人敬心学園日本福祉教育専門学校は、我が国の社会、経済...
2016/01/18 17:19:06	山口大学大学教育機構大学教育センター 林 透	●【2・8(月)開催】山口大学COC+事業FD・SDセミナー2016「今、必要とされる地域貢献マインドとアクション」を開催! 山口大学は、本年度から文部科学省「地(知)の拠点整備事業」...
2016/01/18 16:44:24	森 雅生	●IR実務に関するWSのご案内(2/14金沢市) 東京工業大学の森です。
2016/01/18 16:36:03	金沢大学 学生部 学務課	●【2/10(水)開催】金沢大学大学教育再生加速プログラム第3回教学IR研究会「茨城大学のIR～組織立ち上げから現在の運営に至るまで～」 名付

あさがおメールリングリストのホームページ画面

2. 大学教育研究フォーラム

(1) 大学教育研究フォーラムとは

本センターにより1994年の設立以来20年以上にわたって開催されている、大学教育改革や改善に関する施策や実践が報告される国内最大級のフォーラムです。2015年度で第22回を迎えます。

大学教育研究フォーラムのプログラムは、①基調講演、②シンポジウム、③小講演、④個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)、⑤参加者企画セッションを基本プログラムとして、年によってさまざまなプログラムを追加します。

(2) 第21回大学教育研究フォーラム(2015年3月13～14日)の開催

2014年度は、以下のプログラムで開催し(敬称略)、計662名(学内41名、学外621名)の方が参加しました。

① 基調講演

佐藤 邦明(文部科学省 高等教育局高等教育企画課国際企画室 国際企画専門官)
「グローバル時代における大学教育の国際化を考えるー政策的見地を踏まえてー」

② シンポジウム

テーマ「大学教育の国際化×正課・正課外における主体的な学び」

報告者1 芦沢 真五(東洋大学 国際地域学部 国際地域学科 教授)
報告者2 飯吉 透(京都大学高等教育研究開発推進センター 教授/センター長)
報告者3 落合 一泰(一橋大学大学院社会学研究科 教授)



シンポジウムの様子

③ 小講演(8本)

- 青木 深(一橋大学学生支援センター 特任講師)
「一橋大学大学院におけるアカデミック・キャリア支援の取り組み」
- 石井 英真(京都大学大学院教育学研究科 准教授)
「パフォーマンス評価とルーブリックの基礎と最前線」
- 水谷 雅彦(京都大学文学研究科 教授/附属応用哲学・倫理学教育研究センター長)
「研究倫理と研究公正ーその現状と大学教育ー」
- 近田 政博(神戸大学大学教育推進機構 教授)
「論理的思考を養うアカデミック・ライティング教育のあり方」
- 田坂さつき(立正大学文学部哲学科 教授)
「障がいや難病を生きる人達との哲学対話ーICTを活用したアクティブラーニングー」
- 山田 剛史(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長/准教授)
「高等教育質保証のインパクトーFDから学習成果、IRへ」
- 大塚 雄作(独立行政法人大学入試センター試験・研究副統括官 教授)
「大学入試改革の新動向と課題ー日本の大学入試風土と高大接続答申の狭間でー」
- 重田 勝介(北海道大学高等教育推進機構教育支援部オープンエデュケーションセンター 准教授)
「オープンエデュケーションによる大学教育改善ー反転授業を導入する道内国立大学教養教育連携の事例からー」



個人研究発表(口頭発表)の様子



④MOSTフェロー発表会

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、特徴ある授業実践を行っている全国の大学教員が参加するMOSTフェローシッププログラムを、2012年より実施しています。今回は、「アクティブラーニングを導入してみたがどうもうまくいかない」という大学教員の悩みに対し、MOSTフェローの取り組みを紹介しました。

報告者 村井 淳志(金沢大学 学校教育学類 教授)

勝又あずさ(成城大学 共通教育研究センター 特別任用准教授)

村上 裕美(関西外国語大学短期大学部 准教授)

司 会 村上 正行(京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 准教授)

⑤参加者企画セッション(計11件)

ある特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集するセッションです。本年度は、「最難関大学、高難易度学部生が求める英語授業、学習、教師像—『異質性』の実像化と正統化—」「学生とともに授業を創ろう」「ディープ・アクティブラーニング—反転授業とリーダーシップ教育を事例として—」などが取り上げられました。

⑥個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)(計154件)

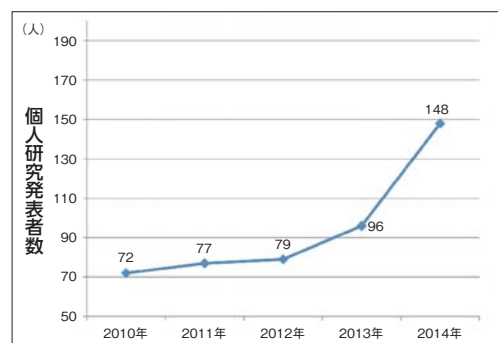
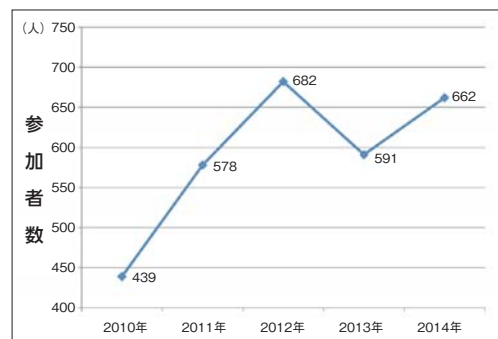
2015年度の第22回は、2016年3月17～18日開催に向けて、現在プログラムを作成中です。(2015年12月現在)

(3)成果と課題——プログラムや機能の充実

右の図に示すように、この5年フォーラムへの参加者数、個人研究発表者はほぼ増加傾向にあります。2015年度の個人研究発表への申込者数は178件であり、さらに増加しています。

フォーラムのよりいっそうの充実をはかるため、さまざまな改善や新しい企画を実現しています。以下はこの2年間に行った取り組みの一例です。今後ますます充実した大学教育研究フォーラムを企画していきたいと考えています。

- (2014年度)授業づくりに関する「MOSTフェロー発表会」のセッション企画。これは、フォーラム全体のなかで、授業づくりに関する報告やセッションが弱いというアンケート結果を受けての改善策です。
- (2014年度)フォーラムのウェブサイト、基調講演・シンポジウム・小講演を収録した「アーカイブ」ページを作成。1日4小講演が同時並行で開催され、他の小講演も聴きたかったというアンケート結果を受けての改善策です。
- (2014年度)個人研究発表に「ポスター発表」形式を導入。これにより、発表者は口頭発表かポスター発表かのいずれか好きな形式を選択できるようになりました。
- (2015年度)ワークショップの導入：座学形式のプログラムが中心となるため、参加形式のワークショップを導入。初回は、講師に中野民夫先生(東京工業大学教授)を迎え、「ワークショップによる学び—授業と研修の新しいやり方—」というテーマで、定員100名で実施予定です。



参加者数・個人研究発表者数の増減(2010-2014年)

3. 大学生研究フォーラム

(1) 大学生研究フォーラムとは

年1回、京都大学高等教育研究開発推進センター、東京大学大学総合教育研究センター、公益財団法人電通育英会とが三者共同で行っているフォーラムです。

近年の大学教育は、学校から仕事・社会へのトランジションを大きな課題として抱え、職業・社会生活を力強く過ごせるような学生をどう育てるかが喫緊の課題となっています。大学はもはや、単に知識を教授する場であるだけでなく、学校から仕事・社会へのトランジションを課題として、技能・態度(能力)を含む学生の成長を促す場となることが期待されています。大学生研究フォーラムは、現代大学生の姿を、調査結果を見ながら、また企業・社会の関係者の声を聞きながら議論する場です。

(2) 大学生研究フォーラム2015(2015年7月24日)の開催

2015年度は、プロジェクトの視点から大学教育や学生の学びと成長を考えました。とくに、当日紹介した社会との連携事業には、学校(大学・高校)と社会との壁や境界がなくなっているという特徴を見いだすことができます。そこには学習とは何なのかという根本的な問いが潜んでいます。フォーラムでは、「プロジェクト」「プロジェクト学習」という対比する用語で、その問いについて考えました。以下に主なプログラムを示します(敬称略)。

① 基調講演

美馬のゆり(公立はこだて未来大学)

「21世紀の学びのデザイン—サステナブルからレジリエントへ—」

② ピースセッション1

1-1: 社会と直結する力を育てる

(1) 平山 恭子(一般社団法人Future Skills Project 研究会事務局)

「未来を創る『主体的な学び』を実践する」

(2) 岩井 雪乃(早稲田大学)

「己を社会の中に文脈化するリフレクション手法—科目『体験の言語化』の開発—」

1-2: 大学・企業・地域のコラボレーション

(3) 日向野幹也(立教大学)

「企業と大学のコラボ授業—なぜ大学でリーダーシップを教えるのか?—」

(4) 見館 好隆(北九州市立大学)

「企業と大学のコラボ授業—プロジェクトベースドラニングは何をもたらすか?—」



大学生研究フォーラムの様子



②ピースセッション2

2-1:地域と学校教育との接点

(5) 松永 桂子(大阪市立大学)

「これまでの地域開発の研究から学校の地域連携事業がどう見えるか？」

(6) 中村 怜詞(島根県立隠岐島前高等学校)

「地域の未来を切り拓くグローバル教育プロジェクト」

2-2:揺れる社会への入口

(7) 服部 泰宏(横浜国立大学)

「採用2020—採用学の視点から見えてくるトレンド—」

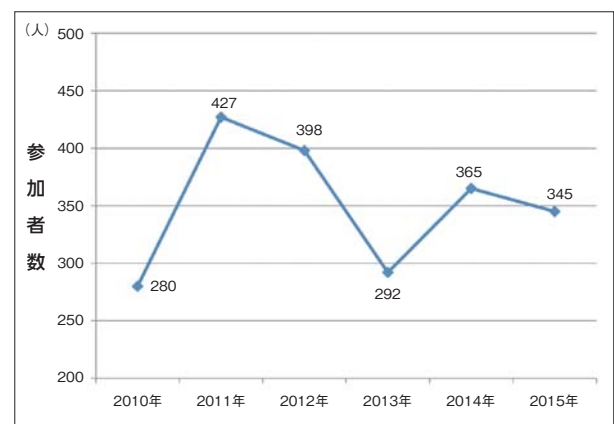
(8) 企業・採用担当者座談会

(3)成果と課題

2010年より2011年にかけては、参加者数が280名から427名まで増加しています。この間には、主催者に東京大学大学総合教育研究センターが加わったこと、第2部の高校教員のためのシンポジウムを追加し、プログラムを充実させたことがあります。その後、参加者数が減少しているように見えますが、それはジグソーカンファレンスやダイアログ形式の参加型のプログラムに変更し、参加者定員を350名に限定したことによるものです。

大学生研究フォーラムは2008年より開催しており、今年で8回行ったことになります。2008年当時は、大学教育の正課教育のなかに、キャリア教育との架橋や学校から仕事・社会へのトランジションを課題とする発想がまだまだ弱く、フォーラムの理論

的・実証的・実践的報告を通して、大学生の学習と成長に基づく教育改革を促進していく大きな意義がありました。しかしながら、2008年に学士課程答申が出され、2011年にキャリアガイダンスの法制化(大学設置基準の改正)、2012年にはアクティブラーニングの施策化(質的転換答申)が進み、大学生研究フォーラムによる啓蒙活動も一定程度の役割を終えつつあります。10年開催を目処に、次のステージへと移っていくことを考え始めています。



大学生研究フォーラムの参加者数の増減

*大学生研究フォーラムのこれまでのプログラムは、電通育英会のウェブサイト

▶ <http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/transmission/forum/>

講演録(ダイジェスト)は、電通育英会の機関誌『IKUEI NEWS』に掲載されています。

▶ <http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/transmission/forum/archive/>

(溝上 慎一)